

●●●2022年1月～3月期 栃木県中小企業景況調査(171回)●●●

【栃木県DI指数天気図】

今期(県内全体)の業況



DI値
-30.9
※全国 -26.6

業況

県内全体の業況(DI値)は、前期(10-12月期)より4.9ポイント悪化の-30.9ポイントとなった。製造業は横ばい、建築業、小売業、サービス業は悪化となった。特に前期に大幅改善した小売業と、4-6月期より改善傾向にあったサービス業で一転し、大幅悪化となった。

来期は、建設業が今期と同幅の悪化が見込まれるが、製造業、小売業、サービス業では大幅改善の見込みであり、県内全体の業況としては8.4ポイントの回復となる見込みである。

全国と比較すると今期は4.3ポイント低いものの、来期も小幅ながらも改善が続く見込みである。

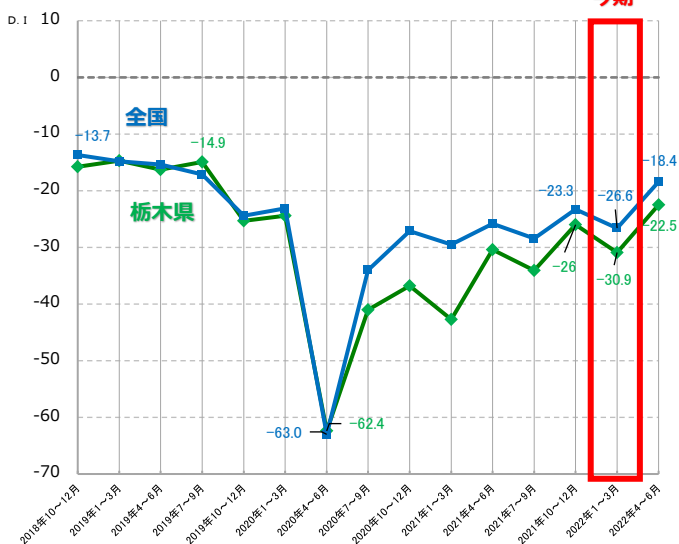
～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
DI値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

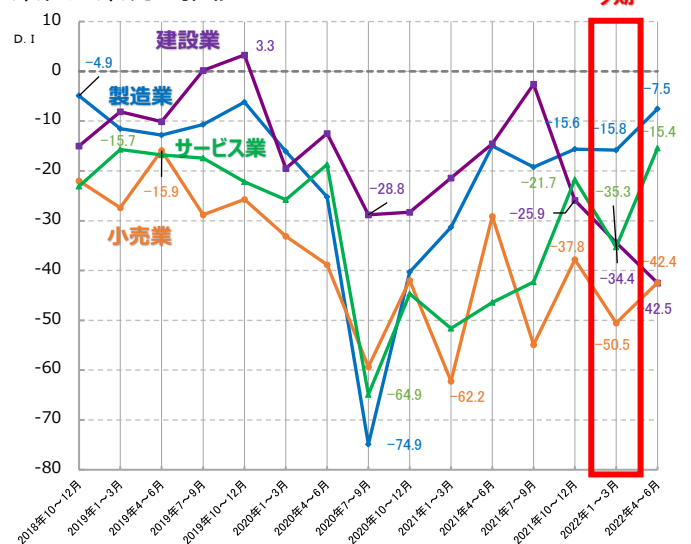
業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	DI値	-15.8	-13.3	82.8	-26.6	-23.4	-7.5
業況：前期から-0.2ポイント悪化、来期は+8.3ポイント改善の見込み							
建設業							
	DI値	-34.4	-60.0	75.0	-50.0	-20.0	-42.5
業況：前期から-8.5ポイント悪化、来期は-8.1ポイント悪化の見込みで不安定な状態続く							
小売業							
	DI値	-50.5	-32.5	37.5	-62.5	-37.5	-42.4
業況：前期から-12.7ポイント悪化、来期は8.1ポイント改善の見込み							
サービス業							
	DI値	-35.3	-40.0	53.3	-55.0	-28.3	-15.4
業況：前期から-13.6ポイント大幅悪化、来期は+19.9ポイント大幅改善の見込み							

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

全国と栃木県の業況の推移

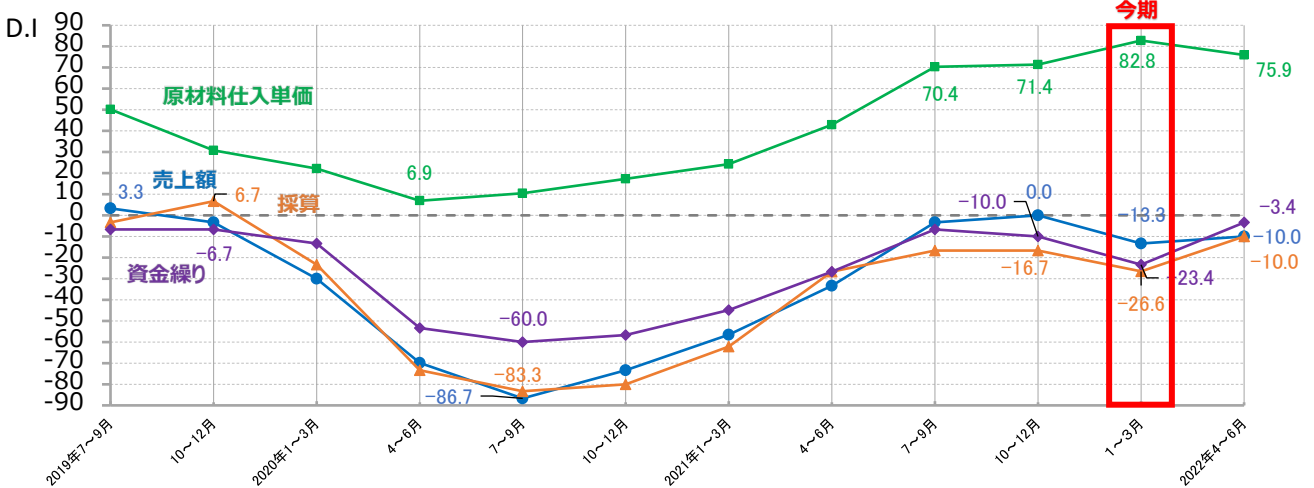


業種別業況の推移



製造業

「各項目で悪化も、来期は採算等で大幅改善の見込み」



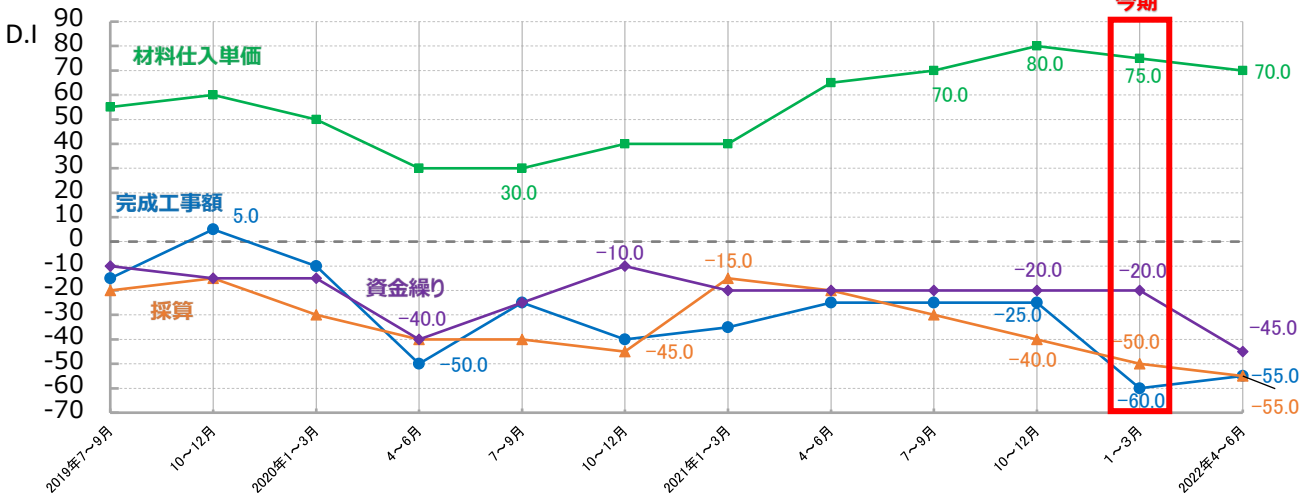
「原材料仕入単価」は11.4ポイント（71.4→82.8）と大幅に上昇した。来期においても6.9ポイント(82.8→75.9)下落するものの、高止まりが続き横ばいとなる見込みである。

「売上額」は2020年7-9月期の最低値より改善傾向にあったが、-13.3ポイント（0.0→-13.3）、「資金繰り」は-13.4ポイント(-10.0→-23.4)と前期に続き2期連続の大幅悪化となった。「採算」は-9.9ポイント(-16.7→-26.6)悪化となった。来期は「売上額」は3.3ポイント(-13.3→-10.0)、「資金繰り」は20.0ポイント(-23.4→-3.4)、「採算」は16.6ポイント(-26.6→-10.0)、と大幅改善が見込まれる。

- 【経営上の問題点】 第1位： 原材料価格の上昇（30.9%） 第2位： 需要の停滞（27.9%）
 第3位： 従業員の確保難（10.3%） 第4位： 生産設備の不足・老朽化（8.8%）

建設業

「完成工事額（売上額）大幅悪化、来期も採算、資金繰りで悪化続く見込み」



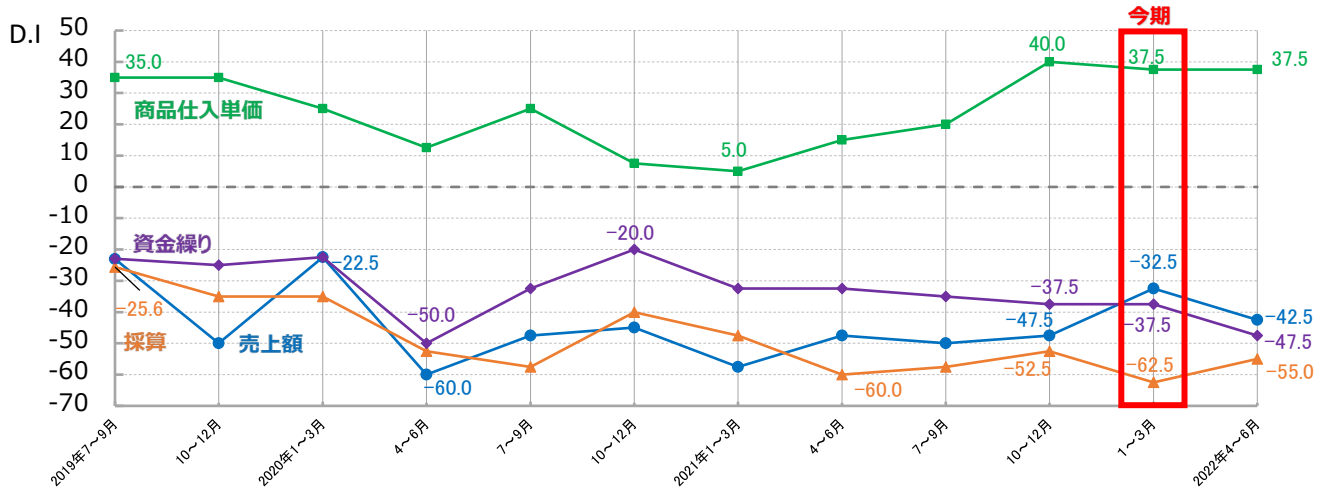
「完成工事額(売上額)」は4-6月期より3期連続の横ばいとなっていたが、-35.5ポイント(-25.0→-60.0)、「採算」は前期と同幅の-10.0ポイント（-40.0→-50.0）と大幅悪化となった。「資金繰り」は1-3月期より5期連続の横ばいとなっており、停滞状態が続いている。来期は「完成工事額（売上額）」は5.0ポイント(-60.0→-55.0)改善となるものの、「採算」は-5.0ポイント（-50.0→-55.0）悪化、「資金繰り」は-25.0ポイント(-20.0→-45.0)と大幅な悪化となる見込みである。

「材料仕入単価」は-5.0ポイント（80.0→75.0）下落し、来期も-5.0ポイント（75.0→70.0）と小幅ながらも下落が続く見込みである。

- 【経営上の問題点】 第1位： 材料価格の上昇（40.0%） 第2位： 従業員の確保難(20.0%)
 第3位： 熟練技術者の確保難（8.6%） 第4位： 官公需要の停滞（5.7%）

小売業

「売上額で大幅改善も、来期は売上額、資金繰りで大幅悪化する見込み」



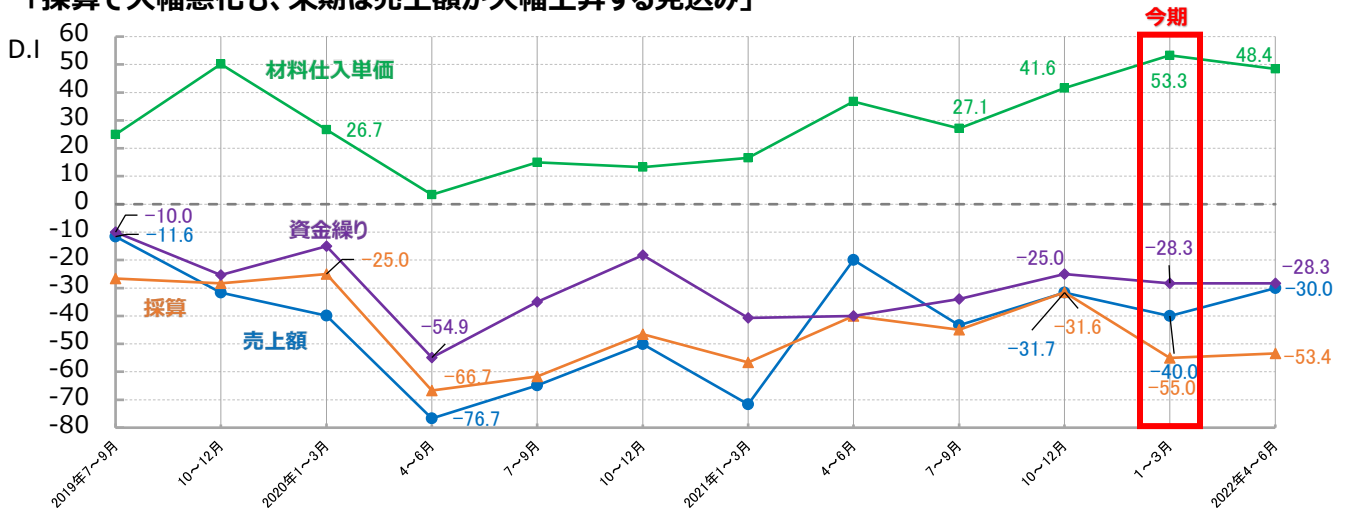
「売上額」は15.0ポイント（-47.5→-32.5）の大幅改善となり2期連続の改善となった。「資金繰り」は横ばい、2021年7月-9月期より小幅ながらも改善が続いていた「採算」は-10.0ポイント（-52.5→-62.5）と大幅悪化となった。来期は「売上額」が-10.0ポイント（-32.5→-42.5）、「資金繰り」が-10.0ポイント（-37.5→-47.5）と大幅悪化する見込みであるが、「採算」は、7.5ポイント（-62.5→-55.0）の改善が見込まれる。

「商品仕入単価」は前期の大幅上昇から-2.5ポイント（40.0→37.5）の下落となったが、来期も横ばいとなり高止まりが続く見込みである。

【経営上の問題点】 第1位：消費者ニーズの変化への対応（19.3%） 第2位：需要の停滞（17.5%）
第3位：仕入単価の上昇（15.8%） 第4位：大・中型店の進出による競争の激化（10.5%）

サービス業

「採算で大幅悪化も、来期は売上額が大幅上昇する見込み」



前期で大幅改善となった「採算」は-23.4ポイント（-31.6→-55.0）と大幅悪化となった。「売上額」は-8.3ポイント（-31.7→-40.0）、4-6月期から改善傾向にあった「資金繰り」は-3.3ポイント（-25.0→-28.3）の悪化となった。来期は「売上額」は10.0ポイント（-40.0→-30.0）と大幅に改善する見込みであるが、今期に大幅悪化となった「採算」は横ばいとなる見込みである。

「材料等仕入単価」は11.7ポイント（41.6→53.3）大幅上昇し、来期は-4.9ポイント（53.3→48.4）下落する見込みである。

【経営上の問題点】 第1位：利用者ニーズの変化への対応（22.5%） 第2位：材料等仕入単価の上昇（20.2%）
第3位：需要の停滞（16.9%） 第4位：利用料金の低下・上昇難（6.7%）

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的实施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

栗野・足尾町・茂木町・石橋・桑絹
大平町・岩舟町・高根沢町・那須烏山・足利市坂西

○調査時点

2022年3月1日

○調査対象期間

2022年1月～3月期の実績及び、2022年4月～6月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。



編集：栃木県商工会連合会 経営の見える課

発行所：栃木県商工会連合会 栃木県宇都宮市中央3丁目1番4号

次の100年も
ここに商工会

TEL 028-637-3731・FAX 028-637-2875